

ヨシモトポールが技術展開催

鉄道関連事業者を対象に 「スリップジョイント」PR

ポール総合メーカーのヨシモトポール(本社「東京都千代田区、石原晴久社長」)は11月5-6日、群馬工場(群馬県藤岡市)で「第2回ヨシモトポール技術展」を開催し、約100人が参加した。テーマは「これからの鉄道環境を支えるものづく

り」。全国の鉄道関連事業者を対象に招待し、新型コロナウイルス感染症対策に万全を期すため、屋外をメイン会場として開催した。今回は30年以上にわたり道路事業の組立鋼管柱で実績のあるボルト不要の接合方式「スリップジョイント」のPRに注力。実物の施工エドモンストレーションにより、従来のボルト接合方式「フランジ式」との施工内容と比較し



スリップジョイント式電車線柱①と実証デモの様子



スリップジョイント式電車線柱②と実証デモの様子

たほか、曲げ試験を実施して強度面や品質面をPRした。同社が鉄道関連事業に本格参入して5年。すでに信号分野では東日本旅客鉄道(JR東日本)から認定メーカーの指定を受けているが、鉄道事業者にターゲットを絞りながら、同分野以外にも広く自社技術の優位性を知ってもらおうと企画した。

取材に応じた地引達也・鉄道関連事業部長は「本事業は2025年をめどに年間10億円規模に成長させたい。グループ全体で多様なニーズを捉え、今後更新が予想されるコンクリートポールなどに替わる新たな製品・技術を提案していきたい」と話す。

「スリップジョイント」は、ボルトや電動工具を使わずに現場施工できることから点検作業を省略でき、準備・撤収も含めた施工時間の短縮ができることが強み。また、接合部に突起がないため狭い場所にも設置できることや、製品重量が軽量であるため特殊重機の手配が不要であるという特長を備える。

鋼管径は60・5ミリ、406・4ミリ、部材長さは2000ミリ、700

00ミリに対応し、現場の条件に合わせて接合位置を選定できる。これまで道路事業で培ったポール加工技術を応用しながら鉄道事業での拡販を目指す。技術展は2日間とも好天に恵まれ、スリップジョイントの他、ダクタイル鋼鉄を使用した鋼鉄バンド、異種金属を摩擦圧接した耐食型アンカーフレーム、既設コンクリート柱補強金具など十数点を展示した。同社は今回の展示会を振り返り、「コロナ禍での新たなPR方法として成果を得られた。さまざまな要望も頂き、今後の開発に生かしたい(地引氏)としている。